

第17回沖縄県医師会新研修医のための シンポジウム・歓迎レセプション

常任理事 大屋 祐輔



沖縄県医師会が主催する新研修医のためのシンポジウム・歓迎レセプションが去る4月4日金曜日にロワジールホテルにて行われました。新研修医（154名中151名出席）、指導医、医師会理事、病院長・副病院長・事務スタッフ、沖縄県など、合計239名の参加をいただきました。新型コロナ蔓延の時期には、中止や規模縮小・飲食禁止で行ってきましたが、会員および新研修医たちからの強い希望もあり、以前のような形に徐々に近づけてきました。とくに本年はほぼ以前の形に変え、沖縄県医師会の新研修医たちを歓迎する気持ちを十分に表すことができましたと思います。

最初の田名会長の挨拶では、沖縄県医師会の特色のみならず、田名毅会長ご自身のこれまでの経歴も紹介され、新研修医たちが田名会長に親しみを持つことができたのではないかと思います。次に、玉城康裕知事の来賓挨拶を池田竹州副知事が代読されましたが、その前に副知

事もご自身の経験を自分の言葉で語られ、歓迎の気持ちを強く表していただきました。

次にオリエンテーションとして、玉城研太郎常任理事から「夢と希望に満ち溢れた医者人生を応援する－沖縄県医師会の役割－」のお話をいただきました。医師のキャリアパス形成について、沖縄県医師会がそれをどのようにサポートしているかの説明、さらに、医師会活動が、医療全体に対して提言を行うのみならず、個々の医師が、働きやすく、やりがいのある医師としての生活につながることも説明いただきました。

その後、「初期研修医で大切なことは？」というテーマでシンポジウムが行われました。シンポジウムの最初には、座長の仲村尚司理事から、リアルタイムアンケートアプリを使って、新研修医の気持ちを聞き取っていただきました。「やりがい」「楽しみ」だけでなく、「不安」が多かったことは、彼らの正直な気持ちであると思いました。その後、各群を代表して

3名の先輩方からのプレゼンテーションがありました。新研修医へ向けての、自分の経験を通じてのアドバイスがあり、これらは新研修医にとってとても役立つものだと思います。一方、先輩の苦勞話を聞いて、新研修医の不安が増える可能性もありましたが、座長の仲村理事の上手な進行で、そのようなこともなく、皆で仲良く頑張ろう、という方向で盛り上がりました。

その後は、懇親会が行われ、玉城常任理事の司会で、3研修病院の挨拶を梅村琉球大学研修センター長、乾杯を本竹沖縄県病院事業局長、各病院およびその新研修医の紹介が行われました。しかし、会場の非常な盛り上がりで、途中から、あまり聞いている人がいないという、毎年と同じ状況になってしまいました。最後に、新研修医代表として大浜第一病院の山崎香織先生からの挨拶をいただき、楽しい会は閉会しました。

元気のよい新研修医たちのこれからのご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

